KORG

SP-250

DIGITAL PIANO



取扱説明書

Ⓙ ①

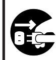
安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

こに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⃠記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

デジタル・ピアノは、ご家庭の中で身近において、お子さまから専門家の方まで幅広くご愛用いただけます。デジタル・ピアノは大きくて非常に重いものです。安全に使用していただくためにも、室内での設置場所や日常の取り扱いについては、十分に注意してください。また、設置や移動の際は必ず2人で行ってください。小さなお子様がご使用になる場合は、ご家族の方が最初に教えてあげてください。

⚠警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、
死亡や重傷を負う可能性が予想されます



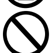
- **ACアダプターのプラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。**
- **ACアダプターのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。**
  感電やショートの恐れがあります。
- **本製品はコンセントの近くに設置し、ACアダプターのプラグへ容易に手が届くようにする。**



- **次のような場合には、直ちに電源を切ってACアダプターのプラグをコンセントから抜く。**
  ○ACアダプターが破損したとき
  ○異物が内部に入ったとき
  ○製品に異常や故障が生じたとき
  修理が必要なときは、コルグ・サービス・センターへ依頼してください。



- **本製品を分解したり改造したりしない。**



- **修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれてること以外は絶対にしない。**
- **ACアダプターのコードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、ACアダプターのコードの上に重いものをのせない。**
  コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- **大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。**
  万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- **本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。**
- **温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。**
- **振動の多い場所で使用や保管はしない。**
- **ホコリの多い場所で使用や保管はしない。**



- **風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。**
- **雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。**
- **本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。**
- **本製品に液体をこぼさない。**



- **濡れた手で本製品を使用しない。**

⚠注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります



- **正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。**
- **ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。**
  ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
  本製品をテレビ等の横に設置すると、本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因になることがあります。

- **外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。**
- **ACアダプターをコンセントから抜き差しするときは、必ずプラグを持つ。**
- **本製品の移動時は、本体とスタンドを別にし、必ず2人以上で持ち上げる。**



- **長時間使用しないときは、ACアダプターをコンセントから抜く。**



- **付属のACアダプターは、他の電気機器で使用しない。**
  付属のACアダプターは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- **他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。**
  本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- **スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。**
  故障の原因になります。
- **外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。**
- **不安定な場所に置かない。**
  本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- **本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。**
  本製品が転倒または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- **本製品の隙間に指などを入れない。**
  お客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- **地震時は本製品に近づかない。**
- **本製品に前後方向から無理な力を加えない。**
  本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

付属のスタンドについて



- **取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方」に従って確実に設置する。**
  本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

データについて

本製品の電源をオフにすると、全てのパラメータが工場出荷時の設定に戻ります。

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。大切なデータは、あらかじめ他のメディア等へセーブしておいてください。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

取扱説明書の表記について

本体のスイッチ類は[　　]で括っています。
⚠は使用上の注意を表します。

演奏を楽しむためのエチケット

音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。演奏する時間によって、音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。
また、ヘッドホン使用時、または小さな音量での演奏時に、鍵盤の機構上若干のメカニズム音が聞こえます。あらかじめご了承ください。

＊ MIDIは社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。

＊ 掲載されている会社名、製品名、規格名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

目　次

はじめに

主な特長

30種類の高品位サウンド

ステレオ・コンサート・グランドピアノを含む表現力豊かな高品質の音色を30種類内蔵しています。また、同時に2つの音を重ねて演奏できるレイヤー・モードも搭載しています。

エフェクト

コンサート・ホールの自然な雰囲気をシミュレーションすることができるリバーブと、音の広がりを加えることができるコーラスの2つのエフェクトを搭載しています。

ダンパー・ペダル・シミュレーション

付属のダンパー・ペダルで、アコースティック・ピアノと同じようなダンパー効果が得られます。また、ダンパー・ペダルは、ハーフ・ダンパー・ペダルとして機能し、ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます。

メトロノーム

拍子、テンポ、音量を変えることができ、さらにアクセント音にベル音を使用できるメトロノームを内蔵しています。

タッチ・コントロール機能

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の度合いを3種類の中から選択できます。

音律

平均律の他に、2種類の古典音律（キルンベルガー、ヴェルクマイスター）を選択することによって、古典音楽等の再現も可能になります。また、音色にアコースティック・ピアノを選んだときは、ストレッチ・チューニングが自動的に選ばれます。

音の高さの調節

トランスポーズ機能により移調を、ピッチ・コントロール機能により音の高さの微調整を行うことができます。

MIDIの装備

電子楽器やコンピュータの間で、演奏情報のやりとりを行う統一規格MIDIを装備しています。MIDIを使うと、接続した機器間で相互にコントロールすることができ、SP-250を16パート・マルチ・ティンバー音源としても使用することができます。

スピーカー内蔵

ピアノの豊かなサウンドを美しく響かせる10cm x 2のスピーカー、11W x 2のアンプを内蔵しています。ピアノ独特の重圧な響きを奏でます。

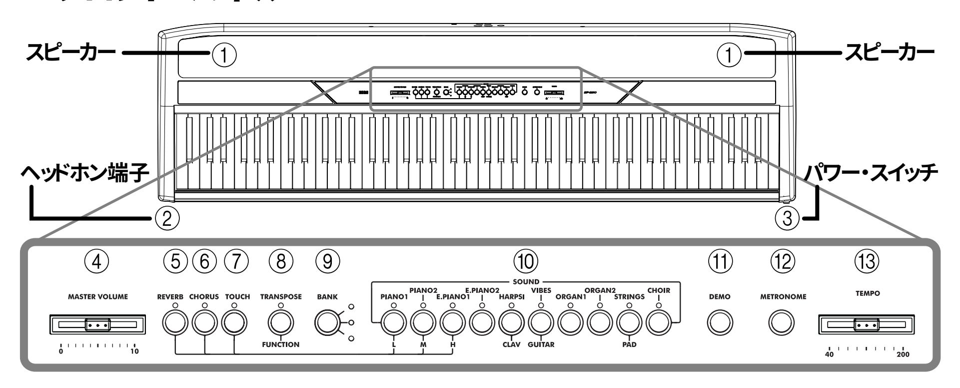
2つのヘッドホン端子

ヘッドホン端子が2つ装備されていますので、2人で演奏を楽しむことができます。

第1章

各部の名称とその機能

フロント・パネル



① **スピーカー：** スピーカーでピアノ演奏を楽しむことができます。

② **ヘッドホン端子：** 標準プラグのヘッドホンを、2つまで接続することができます。ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーからは音が出ません。

③ **パワー・スイッチ：** 電源のオンとオフを切り替えます。

④ **[MASTER VOLUME]スライダー：** 内蔵スピーカー、ヘッドホン端子、そしてアウトプット端子からの音量をコントロールします。

⑤ **[REVERB]スイッチ：** 音に残響音を加えるリバーブの、オンとオフを切り替えます。

⑥ **[CHORUS]スイッチ：** 音に広がりを与えるコーラスの、オンとオフを切り替えます。

⑦ **[TOUCH]スイッチ：** 鍵盤のタッチ（感度）を選びます。

⑧ **[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチ：** 移調、ピッチ、音律やMIDIに関する設定等に使います。

電源をオフにすると、全て工場出荷時の設定に戻ります。

⑨ **[BANK]スイッチ：** 使用する音色を3つのバンクの中から選びます。

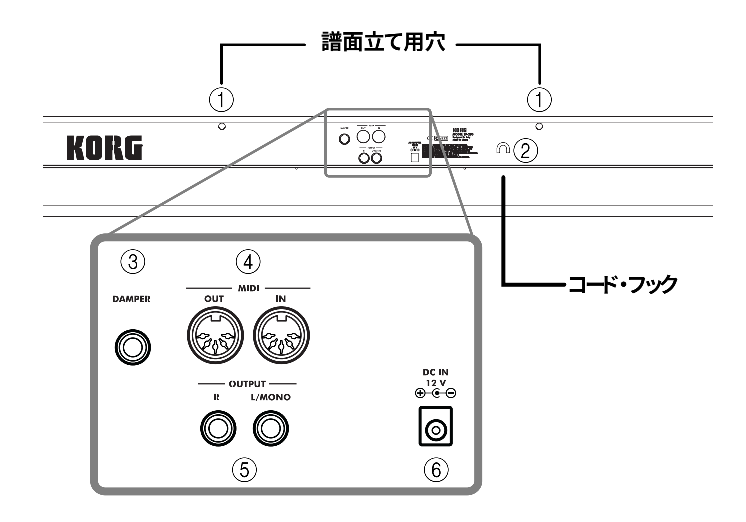
⑩ **[SOUND]スイッチ：** 30（10 x 3バンク）音色から選択します。同時に2つの音色で演奏（レイヤー・モード）することもできます。

⑪ **[DEMO]スイッチ：** デモ・ソングを演奏します。[SOUND]スイッチで30（10 x 3グループ）のデモ・ソングを選ぶことができます。

⑫ **[METRONOME]スイッチ：** メトロノームをスタート、ストップします。

⑬ **[TEMPO]スライダー：** メトロノームのテンポを調節します。

リア・パネル



① **譜面立て用穴:** 付属の譜面立てを穴に挿入して取り付けてください。

譜面立て用穴はガタツキを押さえるため、多少きつめに作られています。取り付け時は少し強めに挿入してください。

② **コード・フック:** ACアダプターのコードを引っかけます。

③ **ダンパー端子:** 付属のペダルを接続します。

④ **MIDI (IN、OUT) 端子:** 他のMIDI機器(シーケンサ、キーボードなど)を接続するときに使用します。

IN: MIDI情報を受信します(SP-250をコントロールする外部MIDI機器のMIDI OUTと接続します)。

OUT: MIDI情報を送信します(SP-250からコントロールする外部MIDI機器のMIDI INと接続します)。

⑤ **アウトプット (L/MONO、R) 端子:** 音声の出力端子です。アンプ付きスピーカーのインプット端子や音響機器のAUX IN端子などにつないでください。
モノラル出力で使用するときは**L/MONO**に接続してください。
アウトプット端子からの出力は**[MASTER VOLUME]**スライダーで調整してください。

⑥ **DC IN 端子:** 付属のACアダプターを接続します。

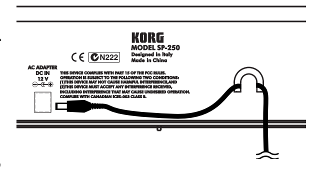
第2章

演奏する前の準備

ACアダプターの接続

1. 本機の電源がオフになっていることを確認します。
2. 付属のACアダプターを本機リア・パネルにある**DC IN**端子に接続します。

   ACアダプターは必ず付属のものをお使いください。他のACアダプターを使用した場合、故障の原因となります。



3. ACアダプターのコードを、コード・フックに引っかけてください。コードをフックからはずすときは、無理に引っ張らないでください。
4. ACアダプターのプラグには、アース端子が付いています。感電と機器の損傷を防ぐためにアース接続を確実に行って、コンセントに接続してください。

   電源は必ずAC100Vを使用してください。

接地コンセントに接続する場合

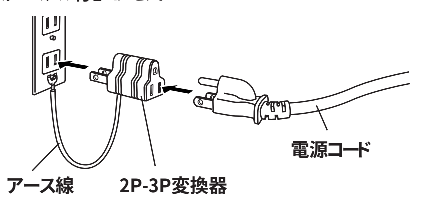
ACアダプターのプラグを、コンセントに直接差し込んでください。

アースターミナル付きコンセントに接続する場合

a. ACアダプターのプラグに2P-3P変換器(市販)を取り付けます。
b. 2P-3P変換器のアース線を、アースターミナル付きコンセントに接続します。
c. 2P-3P変換器をコンセントに差し込んでください。

アースターミナル付きコンセントでは、必ずアース線を先に接続してからコンセントにプラグを差し込んでください。コンセントから外す場合は、必ず先にプラグを抜いてからアース線を外してください。接続方法がわからないときは、コルグお客様相談窓口へご相談ください。





ヘッドホンを使うときは

ステレオ・ヘッドホンは、標準プラグのものをお使いください。または、ミニ→標準の変換プラグのついたヘッドホンもご使用になれます。どちらも、ヘッドホンを抜き差しするときは、プラグまたは変換プラグを持って行ってください。

本体正面の左側にあるヘッドホン端子にヘッドホンのプラグを差し込むと、SP-250のスピーカーからは音が出なくなります。夜間などの周囲へ伝わる音量が気になるときはヘッドホンをお使いください。
ヘッドホン端子は2つありますので、お二人で演奏を楽しむことができます。

ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量で長い時間聴かないでください。

電源を入れる

パワー・スイッチを押して本体の電源をオンにします。電源を入れると、フロント・パネルの**[SOUND]**や**[BANK]**スイッチ等の上のランプが点灯します。
オフにするときは、もう一度パワー・スイッチを押してください。

電源をオフにすると、全て工場出荷時の設定に戻ります。

音量の調節

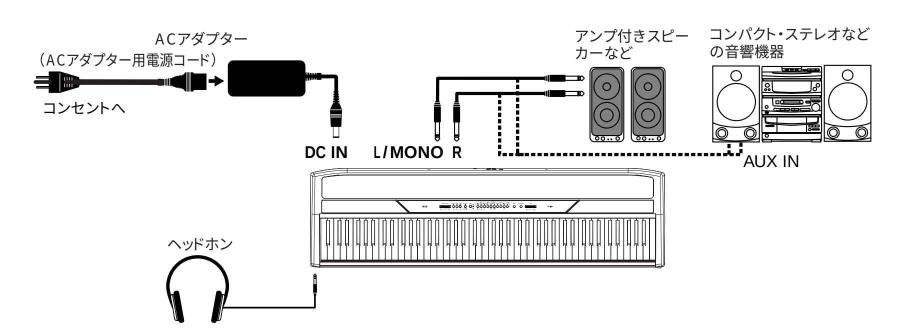
[MASTER VOLUME]スライダーを動かして音量を調整します。音量を小さくするときは左側へ、大きくするときは右側へスライダーを動かします。
内蔵スピーカー、ヘッドホン端子、およびアウトプット端子の音量を調整できます。


***[MASTER VOLUME]**スライダーは**0**の位置から徐々に音量を上げてください。*

アウトプット端子の使い方

アウトプット端子は、内蔵スピーカー以外の音響機器で演奏を聞くときや、録音機材に演奏を録音するときに使用します。
アンプ付きスピーカーや音響、録音機器等のインプット端子に、シグナル・コードを差し込み接続してください。モノラルで接続するときは、**L/MONO**側に接続してください。

各接続は必ず電源オフの状態で行ってください。不注意な操作を行うと、SP-250や接続した機器等を破損したり、誤動作を起こす原因となりますので十分に注意してください。



接続するシグナル・コードは別売品です。接続する機器に合わせて市販品をお求めください。

デモ・ソングの演奏を聴いてみましょう

SP-250には、3つ（1、2、3）のグループにそれぞれ10、合計30のデモ・ソングが入っています。デモ・ソングの演奏を聴いて、SP-250の豊かな音色とその表現力を確認してください。

[SOUND]スイッチ	グループ1	グループ2	グループ3
[PIANO 1]　(1)	F.メンデルスゾーン プレリュード Op.104a-2	KORGオリジナル Reflection	C.ドビュッシー アラベスク第1番
[PIANO 2]　(2)	F.ショパン ノクターン Op.9-2	S.ジョプリン ザ・エンターテイナー	J.S.バッハ 2声のインベンション No.13
[E.PIANO 1]　(3)	C.ドビュッシー 月の光	KORGオリジナル Jumper	F.ショパン 幻想即興曲 Op.66
[E.PIANO 2]　(4)	KORGオリジナル Lullaby for a Little Star	KORGオリジナル All the Ones You Don't Know	J.S.バッハ プレリュード（平均律第1番より）
[HARPSI / CLAV]　(5)	L.v.ベートーヴェン エリーゼのために	J.S.バッハ イタリア協奏曲	KORGオリジナル Rubber Bob
[VIBES / GUITAR]　(6)	F.ショパン 別れの曲 Op.10-3	KORGオリジナル Jazz in Spain	R.シューマン トロイメライ Op.15-7
[ORGAN 1]　(7)	W.A.モーツァルト ソナタ K.331 第3楽章 「トルコ行進曲」	KORGオリジナル Cool "B"	F.メンデルスゾーン 春の歌 Op.62-6
[ORGAN 2]　(8)	F.ショパン ワルツ 第6番 変ニ長調 「小犬」Op.64-1	F.メンデルスゾーン ウェディングマーチ	KORGオリジナル Sunflowers
[STRINGS / PAD]　(9)	KORGオリジナル Old Feather Blues	J.S.バッハ G線上のアリア	P.D.パラディーシ トッカータ イ長調
[CHOIR]　(10)	KORGオリジナル Noise of Time	KORGオリジナル Voice Texture	KORGオリジナル Wet Raccoon Rag

※KORGオリジナル 作曲/演奏: M.Tempia

すべてのデモ・ソングを演奏する

ワンタッチですべてのデモ・ソングの演奏を聴くことができます。

1. **[DEMO]**スイッチ（または、**[TRANSPOSE / FUNCTION]**スイッチを押しながら**E1**の鍵盤）を押してください。**[SOUND]**スイッチの上のランプが左から右へ順番に点滅します。
   約3秒後、デモ・ソングのグループ1-1から順番に演奏を開始します。
   グループ3-10の演奏が終わると、再びグループ1-1から演奏を続けます。

   [TRANSPOSE / FUNCTION]スイッチを押しながら**E1**の鍵盤を押すと、**[SOUND]**スイッチの上のランプが左から右へ順番に点滅し、約3秒後にデモ・ソングのグループ1-1から順番に演奏を開始します。ただし、手順2の操作（グループ内のデモ・ソングへ切り替えること）はできません。

2. 演奏しているときに、そのグループ内の他のデモ・ソングに切り替えるときは、そのデモ・ソングが割り当てられている**[SOUND]**スイッチを押してください。たとえば、デモ・ソング1が演奏されているときに、デモ・ソング10に切り替えるときは、**[SOUND]**スイッチの**[CHOIR]**を押してください。デモ・ソングの演奏が10に切り替わり、順番に演奏を続けます。

3. 演奏を止めるときは**[DEMO]**スイッチを押してください。

特定のデモ・ソングを演奏する

聴きたいデモ・ソングから演奏をはじめることができます。

1. 最初に聴きたいデモ・ソングのグループを選んでください.
   - グループ1を選ぶには、[DEMO]スイッチを一回押してください。
     [SOUND]スイッチの上のランプが、左から右へ順番に点滅します。
   - グループ2を選ぶには、**[DEMO]**スイッチを二回押してください。
     [SOUND]スイッチの上のランプが同時に点滅します。
   - グループ3を選ぶには、**[DEMO]**スイッチを三回押してください。
     隣り合った**[SOUND]**スイッチの上のランプが交互に点滅します。

2. 選んだグループのなかで、聴きたいデモ・ソングが割り振られた**[SOUND]**スイッチを押してください。

   曲を選ばないまま約3秒たったときは、自動的にデモ・ソングのグループ1-1からグループ3-10の順番で繰り返し演奏します。

   選んだデモ・ソングの演奏が終わると、そのグループのデモ・ソングが順番に繰り返し演奏されます。

3. 演奏を止めるときは**[DEMO]**スイッチを押してください。

   *デモ・ソングの演奏中に鍵盤を弾いて音色を出すことはできますが、**[SOUND]**スイッチでSP-250の音色を変えることはできません。*

   デモ・ソングの演奏中はエフェクト（リバーブ、コーラス）の設定を変えることはできません。

デモ・ソングのテンポを調整する

[TEMPO]スライダーを使ってデモ・ソングのテンポを調節することができます。ただし、デモ・ソングのテンポは、**[TEMPO]**スライダーの目盛りと一致しません。

デモ・ソングが切り替わると、その曲のオリジナル・テンポに戻ります。

デモ・ソングの演奏中は、メトロノームを使えません。

第3章

弾いてみましょう

音色を選ぶ（シングル・モード）

SP-250は高品位な音色を30（10 x 3バンク）種類の中から選ぶことができます。

[SOUND]スイッチ	バンク1（上のランプ点灯）	#	バンク2（中央のランプ点灯）	#	バンク3（下のランプ点灯）	#
[PIANO 1]	グランド・ピアノ	2	ブライト・ピアノ	2	メロー・ピアノ	2
[PIANO 2]	ホンキートンク・ピアノ	2	デチューン・ピアノ	2	エレクトリック・グランド・ピアノ	1
[E.PIANO 1]	クラブ・エレクトリック・ピアノ	2	ステージ・エレクトリック・ピアノ	1	シン・エレクトリック・ピアノ	2
[E.PIANO 2]	80 'sエレクトリック・ピアノ	2	デジタル・ エレクトリック・ピアノ	1	ヴィンテージ・エレクトリック・ピアノ	1
[HARPSI / CLAV]	ハープシコード	1	クラビ	1	ワウ・クラビ	1
[VIBES / GUITAR]	ビブラホン	1	マリンバ	1	アコースティック・ギター	1
[ORGAN 1]	ジャズ・オルガン1	2	ジャズ・オルガン2	2	ジャズ・オルガン3	2
[ORGAN 2]	チャーチ・オルガン1	3	チャーチ・オルガン2	1	チャーチ・オルガン3	1
[STRINGS / PAD]	スロー・ストリングス	2	ウォーム・パッド	2	ストリングス	1
[CHOIR]	クァイア Hoo	1	クァイア Doo	2	クァイア・パッド	2

“#”は、音色が使用しているオシレーターの数です（P.27「最大発音数について」を参照）

1. 弾きたい音色の**[SOUND]**スイッチを1つ選びます。選んだスイッチの上のランプが点灯します。
2. **[BANK]**スイッチを押して3種類の中から音色を選びます。押すたびに**[BANK]**スイッチの右のランプが上から順に点灯し、1、2、3、1...とバンク（音色）が切り替わります。

   たとえば、エレクトリック・グランド・ピアノの音色を選ぶには、**[SOUND]**スイッチの**[PIANO 2]**を押してスイッチの上のランプを点灯させます。そのあと**[BANK]**スイッチを2回押してバンク3（エレクトリック・グランド・ピアノ）を選び、**[BANK]**スイッチの右下のランプを点灯させます。なお、バンクは選び直すたびに、それぞれの**[SOUND]**スイッチに記憶されます。

   *電源をオフにすると、各**[SOUND]**スイッチの音色のバンクは1になります。*

2つの音色を重ねて演奏する（レイヤー・モード）

2つの音色を重ねた音で演奏することができます。これを、レイヤー・モードと呼びます。
重ねる音色の**[SOUND]**スイッチの2つを同時に押してください。選ばれた2つの音色のスイッチの上のランプが点灯します。

バンクを変えた音色を使うときは、シングル・モードで各**[SOUND]**スイッチを押したときのバンク（音色）を前もって選んでください。

たとえば、メロー・ピアノとジャズ・オルガン2の音色を重ねて演奏するときは、**[PIANO 1]**にはバンク3（メロー・ピアノ）を、また**[ORGAN 1]**にはバンク2（ジャズ・オルガン2）を選んだ後、両方のスイッチを同時に押してください。

レイヤー・モードを選ぶと、選んだ音色のオシレーター数によって同時発音数が制限されます（P.27「最大発音数について」を参照）。

*同じ**[SOUND]**スイッチに割り振られた音色（**[PIANO 1]**のグランド・ピアノ1とブライト・ピアノなど）を選ぶことはできません。*

シングル・モードに戻るには

[SOUND]スイッチで1つだけ音色を選ぶとシングル・モードに戻ります。

レイヤー・モードで音のバランスを調節するには

レイヤー・モードで音のバランスを調節するために、重ねる音色の**[SOUND]**スイッチを2つ押してください。このとき、音量を小さくしたい側の**[SOUND]**スイッチを押しながら、音量を大きくしたい側の**[SOUND]**スイッチを何度か押して音量を調整します。

電源をオフにするとレイヤー・モードの設定は消去されます。レイヤー・モードの設定はデータ・ダンプ機能（P.25「MIDIデータ・ダンプ」を参照）で保存することができます。

エフェクト（リバーブとコーラス）

SP-250は、リバーブとコーラスの2つのエフェクトを内蔵しています。
リバーブは音に残響と深みを加え、コンサートホールで演奏しているような臨場感のあるサウンドにします。
コーラスは音にうねりを加え、広がりのある豊かなサウンドにします。
エフェクトの設定は音色を切り替えても記憶されています。

レイヤー・モードでエフェクトの設定を変更しても、シングル・モードに戻るとシングル・モードで設定したエフェクトに戻ります。

リバーブを使用すると、最大同時発音数が10少なくなり、コーラスを使うと、最大同時発音数が3少なくなります（P.27「最大発音数について」を参照）。

電源をオフにすると、エフェクトの設定は工場出荷時に戻ります。エフェクトの設定は、データ・ダンプ機能を使用すると、外部MIDIデータ・ファイラーへ保存することができます（P.25「MIDIデータ・ダンプ」を参照）。

1. リバーブをオンにするときは**[REVERB]**スイッチを、コーラスをオンにするときは**[CHORUS]**スイッチを押してください。それぞれのスイッチの上のランプが点灯します。

2. リバーブやコーラス効果の設定を変えるときは、**[REVERB]**または、**[CHORUS]**スイッチを押しながら、**[SOUND]**スイッチの**[PIANO 1]**（L）、**[PIANO 2]**（M）、**[E.PIANO 1]**（H）のいずれかのスイッチを押します。

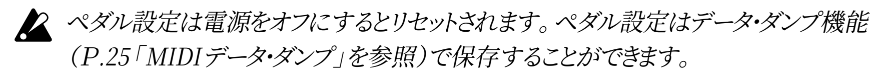
[SOUND]スイッチ	リバーブ効果の設定	コーラス効果の設定
[PIANO 1]（L）	浅い	浅い
[PIANO 2]（M）	標準	標準
[E.PIANO 1]（H）	深い	深い

3. **[REVERB]**スイッチを押しているときは、選ばれているリバーブの設定が、また**[CHORUS]**スイッチを押しているときは、選ばれているコーラスの設定が**[SOUND]**スイッチ（**[PIANO 1]**、**[PIANO 2]**、**[E.PIANO 1]**）の上のランプの点灯で確認できます。

4. リバーブをオフにするときは**[REVERB]**スイッチを、またコーラスをオフにするときは**[CHORUS]**スイッチを押してください。それぞれのスイッチの上のランプが消灯します。

ダンパー・ペダル

付属しているペダルを、ダンパー・ペダルとして使うことができます。また、このダンパー・ペダルは、ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます（ハーフ・ペダル効果）。
レイヤー・モードでは、ダンパー・ペダルの効果をどちらかの音色だけにすることもできます。


ペダル設定は電源をオフにするとリセットされます。ペダル設定はデータ・ダンプ機能（P.25「MIDIデータ・ダンプ」を参照）で保存することができます。

1. **[TRANSPOSE/FUNCTION]**スイッチを押しながらダンパー・ペダルを踏んでください。ペダルを踏むたびに、レイヤーで選んでいる**[SOUND]**スイッチの上のランプが交互または同時に点灯します。

2. ダンパーをかけたい**[SOUND]**スイッチの上のランプが点灯したときに、**[TRANSPOSE/FUNCTION]**スイッチから指を離してください。

メトロノーム

練習に便利な拍子やテンポなどをかえることができるメトロノームを内蔵しています。

メトロノームのオン、オフ

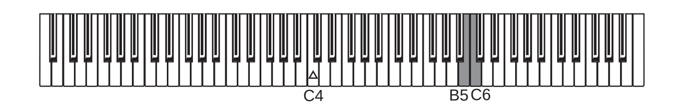
[METRONOME]スイッチを押すと、ランプが点灯し、**[TEMPO]**スライダーの位置のテンポでメトロノームがスタートします。メトロノームを止めるときは、もう一度**[METRONOME]**スイッチを押してランプを消灯します。

メトロノームの音量を調節する

メトロノームの音量を下げるときは、**[METRONOME]**のスイッチを押しながら**[SOUND]**スイッチの**[STRINGS / PAD]**（または**B5**の鍵盤）を何度か押してください。

音量を上げるときは、**[METRONOME]**スイッチを押しながら**[SOUND]**スイッチの**[CHOIR]**（または**C6**の鍵盤）を何度か押してください。

音量を標準に戻すときは、**[METRONOME]**スイッチを押しながら、**[STRINGS / PAD]**と**[CHOIR]**スイッチ（または**B5**と**C6**の鍵盤）を同時に押してください。



スイッチ（鍵盤）	設定	スイッチ（鍵盤）	設定
[STRINGS / PAD]（B5）	音量を下げる	**[CHOIR]**（C6）	音量を上げる

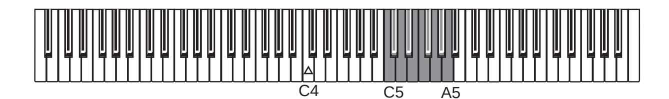
テンポの調整

テンポは♩= 40〜200の範囲で**[TEMPO]**スライダーや鍵盤で数値を入力し、調節することができます。

テンポの数値入力

[TEMPO]スライダーでおおよそのテンポを設定することはできますが、正確な数値でテンポ値を設定するには鍵盤を使います。

1. **[METRONOME]**スイッチを押し続けてください。
2. 対応する**C5〜A5**の鍵盤を押して3桁の数字でテンポを指定します。2桁の数字のときにはまず0を選んでください。



鍵盤	数字	鍵盤	数字
C5	0	**F5**	5
C♯5	1	**F♯5**	6
D5	2	**G5**	7
D♯5	3	**G♯5**	8
E5	4	**A5**	9

例1：テンポを168にするには、**[METRONOME]**スイッチを押しながら、**C♯5**（1）、**F♯5**（6）、**G♯5**（8）の順に鍵盤を押します。

例2：テンポを85にするには、**[METRONOME]**スイッチを押しながら、**C5**（0）、**G♯5**（8）、**F5**（5）の順に鍵盤を押します。

拍子の設定

小節の1拍目にアクセント音が入ります。

[SOUND]スイッチ	拍子
[PIANO 1]	2拍子（2/4, 2/8...）
[PIANO 2]	3拍子（3/4, 3/8...）
[E.PIANO 1]	4拍子（4/4, 4/8...）
[E.PIANO 2]	6拍子（6/4, 6/8...）

1. **[METRONOME]**スイッチを押しながら、設定する拍子に対応した**[SOUND]**スイッチを押します。小節の最初にアクセント音が入ります。

2. アクセント音を消すには**[METRONOME]**スイッチを押したときに、ランプが点灯した拍子の設定の**[SOUND]**スイッチを押してください。

   [METRONOME]スイッチを押しているときは、選ばれている拍子の設定が**[SOUND]**スイッチの上のランプの点灯で確認できます。

   電源をオフにすると拍子（アクセント音）無しの設定になります。

アクセント音の選択

1. **[METRONOME]**スイッチを押しながら、**[SOUND]**スイッチの**[VIBES / GUITAR]**を押してください。アクセント音はベル音になり、**[VIBES / GUITAR]**の上のランプが点灯します。

2. 標準のアクセント音に戻すときは、**[METRONOME]**スイッチを押しながら**[SOUND]**スイッチの**[HARPSI / CLAV]**を押してください。このとき、**[HARPSI / CLAV]**の上のランプが点灯します。

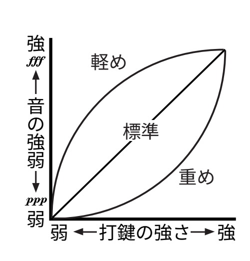
   [METRONOME]スイッチを押しているときは、選ばれているアクセント音（標準、ベル）の設定が**[SOUND]**スイッチの上のランプの点灯で確認できます。

   電源をオフにすると標準のアクセント音の設定になります。

第4章

他の機能

鍵盤タッチ・コントロールの設定



鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを設定します。設定を変えるときは、**[TOUCH]**スイッチを押しながら、**[SOUND]**スイッチの**[PIANO 1]**(L)、**[PIANO 2]**(M)、**[E.PIANO 1]**(H)のいずれかのスイッチを押します。軽め、または重めが選ばれているときは**[TOUCH]**スイッチの上のランプが点灯します。

[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、**B3**、**C4**、**D4**の鍵盤を押して切り替えることもできます。

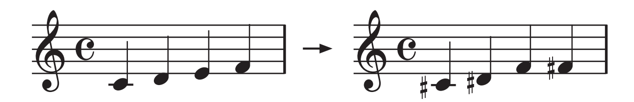
[SOUND]スイッチ	鍵盤	タッチコントロールの設定
[PIANO 1](L)	B3	軽め…弱く弾いても強音が出せるタッチ
[PIANO 2](M)	C4	標準…普通のピアノ・タッチ
[E.PIANO 1](H)	D4	重め…強く弾かないと強音が出せないタッチ

[TOUCH]スイッチを押しているときは、選ばれているタッチ・コントロールの設定が**[SOUND]**スイッチの上のランプの点灯で確認できます。

電源をオフにすると標準の設定に戻ります。

トランスポーズ

キーを変える(移調する)ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで、他の楽器や歌に演奏を合わせることができます。これをトランスポーズ機能といいます。11半音の範囲でずらすことができ、1半音上げた場合、下図の左の楽譜を弾くと、右の楽譜のように鳴ります。



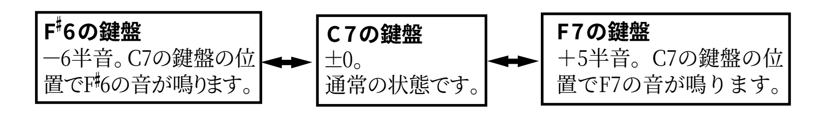
電源をオフにするとトランスポーズは解除されます。

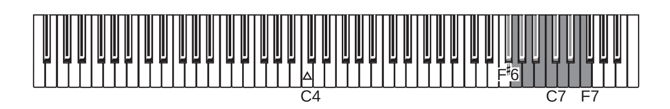
1. **[TRANSPOSE/FUNCTION]**スイッチを押しながら、**F♯6**〜**F7**中から移調するキーの鍵盤を押します。

2. **C7**以外の鍵盤を押えると**[TRANSPOSE/FUNCTION]**スイッチのランプが点灯し、トランスポーズされたことを示します。

3. 押さえた鍵盤の音の高さが**C7**の位置に対応するように、鍵盤全体の音の高さが移調します。

4. もとの設定に戻すときは、**[TRANSPOSE/FUNCTION]**スイッチを押しながら、**C7**の鍵盤を押します。このとき、スイッチのランプが消灯し、トランスポーズが解除されます。





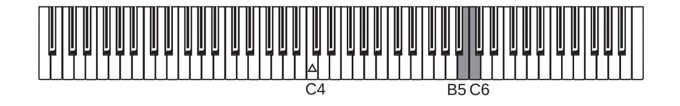
鍵盤	キーの高さ
F♯6〜B6	6〜1半音下げる
C7	標準（トランスポーズなし）
C♯7〜F7	1〜5半音上げる

ピッチ・コントロール

ピッチ（音の高さ）の微調整を行ないます。他の楽器と合奏をするときなどに、楽器間の微妙なピッチのずれを調整します。0.5Hzステップで±12.5Hz（427.5Hz〜452.5Hz）までずらすことができます。基準ピッチはA=440Hzです。

電源をオフにすると、基準ピッチ（A4=440Hz）に戻ります。

1. **[TRANSPOSE/FUNCTION]**スイッチを押しながら、**B5**または**C6**の鍵盤を押します。
2. **B5**の鍵盤を押すたびに0.5Hzずつピッチが下がり、**C6**の鍵盤を押すたびに0.5Hzずつピッチが上がります。
3. 基準ピッチに戻すときは、**[TRANSPOSE/FUNCTION]**スイッチを押しながら、**B5**と**C6**の鍵盤を同時に押します。



鍵盤	ピッチ
B5	押すたびに0.5Hz下がる
B5＋C6	基準ピッチ（A4=440Hz）
C6	押すたびに0.5Hz上がる

音律を選ぶ

クラシック音楽には、古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。これらの曲の持つ本来の響きを再現するために、キルンベルガーとヴェルクマイスターという古典音律と、現在鍵盤楽器で広く用いられている平均律の3種類の音律が選択できます。

[TOUCH]スイッチを押しながら、**[SOUND]**スイッチの**[HARPSI / CLAV]**または、**[VIBES / GUITAR]**を押します。このとき選んだスイッチの上のランプが点灯します。

[SOUND] スイッチ	音律
[HARPSI / CLAV]	**ヴェルクマイスター:** ドイツ人のオルガニストで音楽理論家のアンドリアス・ヴェルクマイスターによる、ヴェルクマイスターIIIスケールです。 これはバロック時代後期に比較的自由な移調を目的として考案されたものです。
[VIBES / GUITAR]	**キルンベルガー:** 18世紀初めに、ヨハン・フィリップ・キルンベルガーが考案したキルンベルガーIIIスケールです。 これは主にハープシコードのチューニングに使用されます。
[HARPSI / CLAV] [VIBES / GUITAR] 両方のランプが消灯	**平均律:** 現在の鍵盤楽器のほとんどすべてがこの平均律を用いています。これは半音階が均等に配列しているため、どの調に対しても均一のスケールで演奏することができます。

平均律に戻すときは、**[TOUCH]**スイッチを押しながら、スイッチのランプが点灯している**[HARPSI / CLAV]**、または**[VIBES / GUITAR]**を押してランプを消灯します。

[TOUCH]スイッチを押しているときは、該当する音律の**[SOUND]**スイッチの上のランプが点灯します。これにより設定を確認することができます。

 *電源をオフにすると、音律は平均律に戻ります。*

ストレッチ・チューニングについて

[PIANO 1]、**[PIANO 2]**の音色は、ストレッチ・チューニングを用いています。
ストレッチ・チューニングは、より自然な響きを得るために、平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高くピッチを調整したものです。これは、アコースティック・ピアノが通常調律される方法です。

第5章

MIDI

MIDI（ミディ）とは？

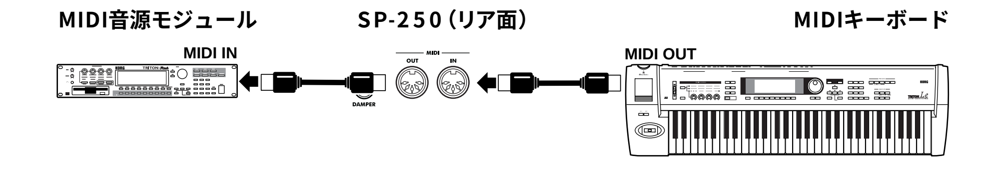
MIDI（Musical Instrument Digital Interface）は、電子楽器やコンピュータの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。

MIDIでなにができるの？

MIDIを利用するとSP-250から他のMIDI機器をコントロールしたり、他のMIDI機器からSP-250の音源を鳴らしたりすることができます。また、シーケンサーや複数のMIDI機器を組み合わせることで、複雑なアンサンブルを楽しむこともできます。

MIDIの接続

MIDI情報をやりとりするには、MIDIケーブル（別売）を使います。このケーブルを、SP-250のMIDI端子と情報をやりとりする外部MIDI機器のMIDI端子に接続します。このMIDI端子は2種類あります。



MIDI OUT　MIDI情報を送信します。SP-250の鍵盤を弾いたときに出力されるMIDI情報で、外部MIDI機器の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。
SP-250のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続します。

MIDI IN　MIDI情報を受信します。外部MIDI機器（MIDIキーボードやシーケンサーなど）で、SP-250の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。
SP-250のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子をMIDIケーブルで接続します。

MIDIの基本設定

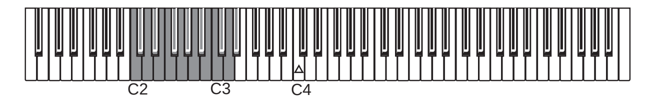
電源をオンにしたときは、SP-250のMIDIパラメータは下記のように設定されています。

パラメータ	設定
送信チャンネル	1
受信チャンネル	全て受信（1〜16）*
ローカル	オン
オムニ	オフ

* 受信チャンネル10には、メトロノーム音（D#5, E5）が割り当てられています。このため、このチャンネルでは、プログラム・チェンジを受信することはできません。

送信チャンネルの変更

MIDIには、データのやりとりが可能なMIDIチャンネル1〜16があります。
電源をオンにしたときは、送信チャンネルには自動的に1が割り当てられます。送信チャンネルを変更するときは、**[TRANSPOSE/FUNCTION]**スイッチを押しながら、選ぶチャンネルが割り振られた鍵盤**C2**〜**D#3**の1つを押します。



鍵盤	チャンネル	鍵盤	チャンネル
C2	1	**G#2**	9
C#2	2	**A2**	10
D2	3	**A#2**	11
D#2	4	**B2**	12
E2	5	**C3**	13
F2	6	**C#3**	14
F#2	7	**D3**	15
G2	8	**D#3**	16

レイヤー・モードの場合、送信チャンネルを選ぶと、MIDIプログラム・チェンジ・ナンバー（PC#）の小さい側のチャンネルが設定されることになります。PC#の大きい側の送信チャンネルは、自動的に連続したチャンネルが割り当てられます。たとえば、MIDIプログラム・チェンジ・ナンバー（PC#）の小さい側の音色にMIDIチャンネル7を割り当てたときは、PC#の大きい側の音色は自動的にMIDIチャンネル8が選ばれます。PC#の小さい側の音色にMIDIチャンネル16を割り当てたときは、PC#の大きい側の音色はチャンネル1が選ばれます。

マルチ・ティンバー音源としてSP-250を使う

SP-250は、内蔵音源を外部MIDI機器からコントロールして鳴らすことができる16パート・マルチ・ティンバー音源として動作することができます。

1. SP-250のMIDI IN端子とシーケンサーなどのMIDI OUT端子を、MIDIケーブルで接続します。
2. 接続したシーケンサーなどからMIDIデータを送信します。接続するシーケンサーなどからの送信方法はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

演奏データと一緒にプログラム・チェンジ・メッセージを受信すると、そのプログラム・ナンバーに対応するSP-250の音色で演奏されます。ただし、プログラム・チェンジの設定がイネーブルになっているときに限ります。

ローカル・オン/オフ

ローカル・オンでは、SP-250の鍵盤を弾くと演奏の音が鳴り、同時にMIDIデータを送信します。ローカル・オフでは、SP-250を弾いても演奏の音は鳴らず、データだけを送信します。通常はローカル・オンに設定します。

SP-250をマスター・キーボードとして使用する場合、たとえばSP-250を接続したMIDI機器（キーボード、音源モジュール等）の音色で演奏するときは、SP-250をローカル・オフに設定します。SP-250は鳴りませんが、接続したMIDI機器の音色で演奏されます。
また、SP-250を音源として使用する場合、たとえばSP-250をシーケンサーと接続して、シーケンサー側でエコーバック（シーケンサーが受信したデータを送り返す動作）を設定していて、戻ってきたデータで二重に鳴るのを防ぐときは、ローカル・オフに設定します。

[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、**[SOUND]**スイッチの**[PIANO 1]**を押してください。押すたびにローカルの設定のオン、オフが切り替わります。

ローカルの設定	[PIANO 1]の上のランプ
ローカル・オン	点灯
ローカル・オフ	消灯

電源をオフにすると、設定はローカル・オンに戻ります。

プログラム・チェンジ

SP-250からMIDIプログラム・チェンジ・ナンバーを送信し、接続したMIDI機器のプログラムを切り替えたることができます。また、接続したMIDI機器からのMIDIプログラム・チェンジ・ナンバーを受信し、SP-250のプログラムを切り替えることができます。プログラム・チェンジ・ナンバーと音色の対応については、P.24の「プログラム・チェンジ・ナンバーと音色の対応表」を参照してください。

プログラム・チェンジの送信

SP-250で**[SOUND]**スイッチと**[BANK]**スイッチで音色を選ぶと、対応するMIDIプログラム・チェンジ・ナンバー0～29を送信します。

プログラム・チェンジの受信

SP-250でプログラム・チェンジ・ナンバー0～29を受信すると、対応する音色へ切り替わります。

プログラム・チェンジ・ナンバーと音色の対応表

PC#	[SOUND]スイッチ	音色バンク	音色
0	[PIANO 1]	1	グランド・ピアノ
1		2	ブライト・ピアノ
2		3	メロー・ピアノ
3	[PIANO 2]	1	ホンキートンク・ピアノ
4		2	デチューン・ピアノ
5		3	エレクトリック・グランド・ピアノ
6	[E.PIANO 1]	1	クラブ・エレクトリック・ピアノ
7		2	ステージ・エレクトリック・ピアノ
8		3	シン・エレクトリック・ピアノ
9	[E.PIANO 2]	1	80'sエレクトリック・ピアノ
10		2	デジタル・エレクトリック・ピアノ
11		3	ヴィンテージ・エレクトリック・ピアノ
12	[HARPSI/CLAV]	1	ハープシコード
13		2	クラビ
14		3	ワウ・クラビ
15	[VIBES/GUITAR]	1	ビブラホン
16		2	マリンバ
17		3	アコースティック・ギター
18	[ORGAN 1]	1	ジャズ・オルガン1
19		2	ジャズ・オルガン2
20		3	ジャズ・オルガン3
21	[ORGAN 2]	1	チャーチ・オルガン1
22		2	チャーチ・オルガン2
23		3	チャーチ・オルガン3
24	[STRINGS/PAD]	1	スロー・ストリングス
25		2	ウォーム・パッド
26		3	ストリングス
27	[CHOIR]	1	クァイア Hoo
28		2	クァイア Doo
29		3	クァイア ・ パッド

プログラム・チェンジのイネーブル / キャンセル

プログラム・チェンジの情報を送受信するときはイネーブルに、送受信しないときはキャンセルに設定します。

[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、**[SOUND]**スイッチの**[PIANO 2]**を押してください。押すたびに設定がイネーブル、キャンセルをくりかえします。

設定	[PIANO 2]の上のランプ
イネーブル	点灯
キャンセル	消灯

電源をオフにすると、イネーブルの設定に戻ります。

コントロール・チェンジ

SP-250のダンパー・ペダルなどの情報を、接続した外部MIDI機器に送信してコントロールしたり、外部MIDI機器からこれらの情報を受信してSP-250をコントロールします。

コントロール・チェンジのイネーブル / キャンセル

コントロール・チェンジの情報を送受信するときはイネーブルに、送受信しないときはキャンセルに設定します。

[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、**[SOUND]**スイッチの**[E.PIANO 1]**を押してください。押すたびに設定がイネーブル、キャンセルをくりかえします。

設定	[E.PIANO 1]の上のランプ
イネーブル	点灯
キャンセル	消灯

電源をオフにすると、イネーブルの設定に戻ります。

MIDIデータ・ダンプ

SP-250では音色の設定やエフェクターの設定を外部のMIDIデータ・ファイラー（記憶装置）に保存し、必要なときにSP-250に読み込み、設定を再現することができます。

データ・ファイラーの取扱説明書をよくお読みになり、データを消してしまわないように十分注意してください。

データ・ダンプの実行中は、本体の鍵盤やスイッチに触れないでください。

どのデータがデータ・ダンプで保存されるかは下表のとおりです。

種類	データ
シングル・モード	リバーブとコーラスの設定（オン/オフ、効果の深さ）
レイヤー・モード	音量バランス、それぞれの音色へのダンパーのオン/オフ

データをデータ・ファイラーに保存

1. SP-250のMIDI OUT端子とデータ・ファイラーのMIDI IN端子を、MIDIケーブルで接続します。
2. データ・ファイラーを操作して、SP-250からのMIDIデータを受信待ちの状態に設定します。
3. SP-250の**[TRANSPOSE / FUNCTION]**スイッチを押しながら**[SOUND]**スイッチの**[VIBES / GUITAR]**を押します。それぞれのスイッチの上のランプが点滅し、データ・ダンプ送信待ちの状態になります。
   データ・ダンプをキャンセルするときは、**[TRANSPOSE / FUNCTION]**スイッチまたは**[SOUND]**スイッチの**[VIBES / GUITAR]**を押します。
4. **[TOUCH]**スイッチを押します。データ・ダンプが始まり、演奏データがデータ・ファイラーに送信されます。
5. データの送信が終了すると、データ・ファイラーにデータが記録され、通常の演奏ができる状態に戻ります。

   データ・ダンプ送信待ちの状態や、データ・ファイラーにデータを送信している間は、SP-250から音は出ません。

データ・ファイラーからデータを読み込む

1. SP-250のMIDI IN端子とデータ・ファイラーのMIDI OUT端子をMIDIケーブルで接続します。
2. SP-250の**[TRANSPOSE / FUNCTION]**スイッチを押しながら**[SOUND]**スイッチの**[VIBES / GUITAR]**を押します。それぞれのスイッチの上のランプが点滅し、データ・ダンプ受信待ちの状態になります。
   データ・ダンプをキャンセルするときは、**[TRANSPOSE / FUNCTION]**スイッチまたは**[SOUND]**スイッチの**[VIBES / GUITAR]**を押します。
3. データ・ファイラーを操作して、あらかじめ保存しておいたSP-250のデータを送信します。データの送信については、データ・ファイラーの取扱説明書をご覧ください。
4. SP-250がデータを受信します。
5. データの受信が終了すると、通常の演奏ができる状態に戻ります。

   データ・ダンプ受信待ちの状態や、データ・ファイラーからデータを受信している間は、SP-250から音は出ません。

第6章

付録

故障かな？とお思いになる前に

ご使用中に問題が起こった場合は、次の事項を確認してください。それでも本製品が正しく動作しない場合は、コルグ・サービス・センターへお問い合わせください。

症状	対策
電源が入らない。	ACアダプターが、SP-250とコンセントに正しく接続されていることを確認してください。
音が出ない。	SP-250のボリュームが0になっていないかを確認してください。0になっていたら、適切なレベルまでボリュームをあげてください。
	MIDIのローカル・コントロールがオフになっていないかを確認してください。ローカル・コントロールがオフならば、オンにしてください。
	ヘッドホン端子にプラグが接続されていないかを確認してください。ヘッドホン端子にプラグが接続されているときは、プラグを抜いてください。
音が途切れる。	最大同時発音数を越えています。次項の「最大発音数について」をご覧ください。
特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本体の音をできるかぎり忠実に再現しようとしています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音質が異質に感じる場合がありますが、本機の不良ではありません。
接続したMIDI機器が、送信したMIDIデータに応答しない。	MIDIケーブルが、すべて正しく接続されていることを確認してください。MIDI機器と同じチャンネルで、本機がMIDIデータを受信していることを確認してください。

最大発音数について

SP-250は前に鳴っている音を消して、後で押さえた音を優先的にならす仕組みになっているため、最大同時発音数を越えると音が切れてしまいます。SP-250の音色の中には1つの音色でも2つ以上のオシレータ（音源回路の1音分）から、構成されている音色もあります。オシレータが1つから構成されている**[HAPSI / CLAV]**などの音色は最大同時発音数が60音です。データが2つから構成されている**[PIANO 1]**や**[PIANO 2]**のバンク1、2などの音色は最大同時発音数が30音です。また、エフェクトを使用したときは、発音数がリバーブで10音、コーラスで3音ほど少なくなります。
音色やエフェクトの組み合わによる使用可能最大発音数は、下記の式で求められます。

（60－エフェクト使用発音数）÷音色オシレーター数＝使用可能最大発音数

例1: **[PIANO 1]**のバンク1（グランド・ピアノ）を選んでリバーブをオンにした場合
（60－10）÷2＝25　（使用可能最大発音数は25）

例2:　**[HARPSI / CLAV]**のバンク2（クラビ）を選んでコーラスをオンにした場合
（60－3）÷1＝57　（使用可能最大発音数は57）

レイヤーにして2つの音色を鳴らすとき、ダンパー・ペダルを使用するとき、エフェクトをかけたときなどは、最大同時発音数を考えて音色を上手に選んでください。

仕様

鍵盤	88鍵（A0～C8）ベロシティー付き フルスケール・ハンマー・アクション鍵盤
タッチ・コントロール	ライト（軽め）、ノーマル（標準）、ヘビー（重め）
ピッチ	トランスポーズ、ファイン・チューニング
音律	平均律、キルンベルガー、ヴェルクマイスター
音源	ステレオPCM音源
同時発音数	60（最大）
音色	30（10 x 3バンク）
エフェクト	リバーブ、コーラス（各3設定）
デモ・ソング	30（10 x 3グループ）
メトロノーム	テンポ、拍子、アクセント、音量
ペダル	ダンパー（付属）
接続端子	アウトプット（L/MONO、R）、MIDI（IN、OUT）、ヘッドホン x 2、ダンパー
コントロール	パワースイッチ、マスターボリューム、リバーブ、コーラス、タッチ、トランスポーズ/ファンクション、バンク、サウンド、テンポ、メトロノーム、デモ
アンプ出力	11W x 2
スピーカー	10cm x 2
電源	DC 12V、ACアダプター（付属）
外形寸法	1,295 x 380 x 140 mm（W x D x H）（譜面立て、専用スタンドを除く）
重さ	19kg（専用スタンドを除く）
付属品	ACアダプター（12V、⊖-◐-⊕）、ダンパー・ペダル、譜面立て、ヘッドホン、専用スタンド

仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。
Sound Processed with INFINITY™

スタンドの組み立て方

⚠ 警 告

必ず2人以上で組み立ててください。

組み立て時の注意

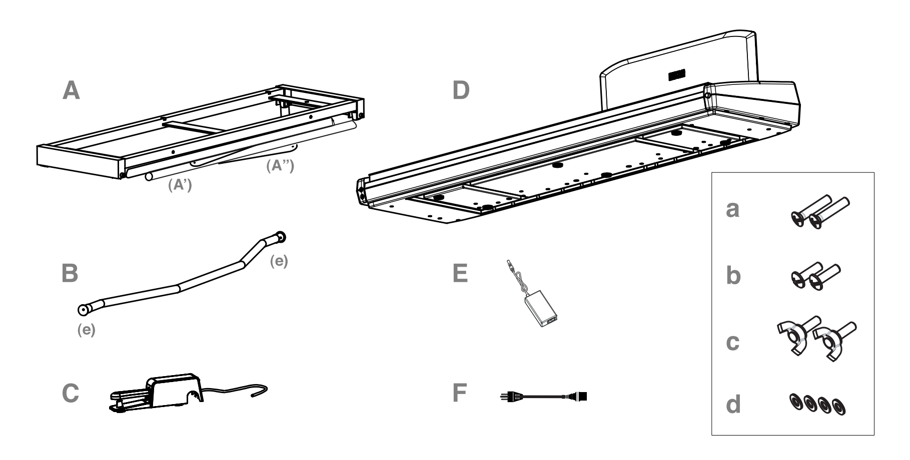
正しく安全に組み立てるためには、以下の項目に注意して作業を行ってください。

- 部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順通りに組み立ててください。
- デジタルピアノの本体をスタンドに固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので、十分に注意してください。

組み立て方法

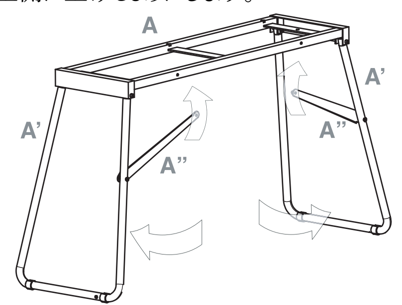
お手持ちのプラスのドライバーを用意してください。

1. 下記が全て揃っていることを確認してください。

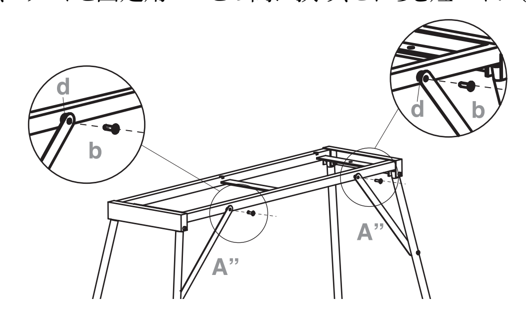


A:	スタンド（脚、固定用バーを含む）	x 1		a:	長いネジ（M6 x 30）	x 2
B:	ペダル用バー（キャップ付き）	x 1		b:	短いネジ（M6 x 20）	x 2
C:	ダンパー・ペダル	x 1		c:	ボルト（M6 x 20）	x 2
D:	デジタル・ピアノ本体	x 1		d:	ワッシャー	x 4
E:	ACアダプター（本体）	x 1				
F:	ACアダプター専用コード	x 1				

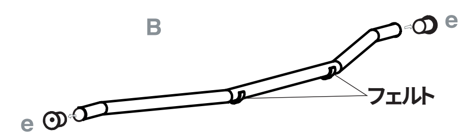
2. スタンド（A）の左右の脚（A ”）を、イラストのように外側へ広げてください。このとき、固定用バー（A ’）の先を、上側に上げるようにします。



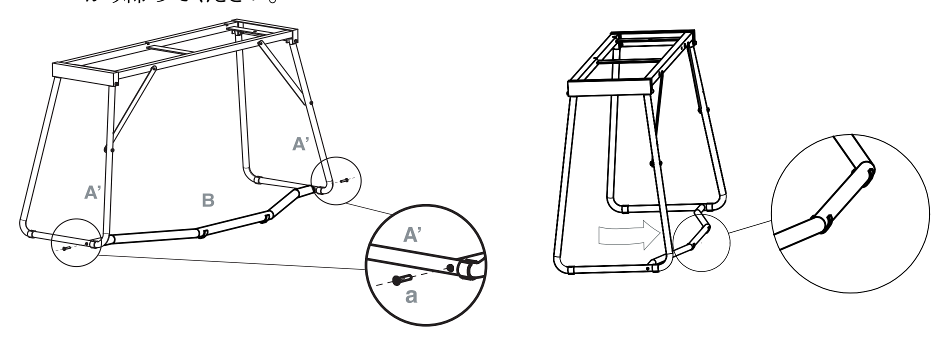
3. スタンド上部と固定用バー（A ”）を、短いネジ（b）2つとワッシャー（d）2つで留めます。ワッシャー（d）は、スタンドと固定用バーとの間に挟み、これらを短いネジ（b）で締めてください。



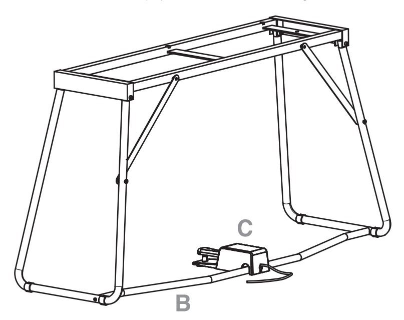
4. ペダル用バー（B）の両端に付いているキャップ（e）を、それぞれ取り外します。



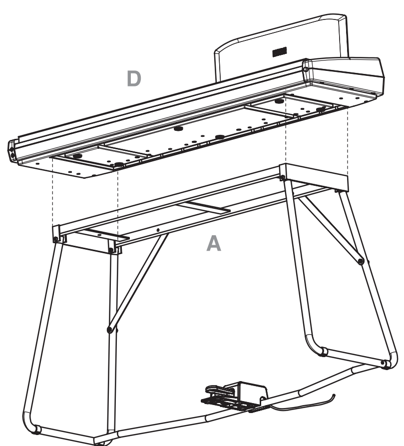
5. ペダル用バーの曲がった部分を、スタンド後部側にして置きます。フェルト部分を床面に接触させるようにして置いてください。ペダル用バーとスタンドの下部を合わせ、長いネジ（a）2つで締めます。スタンドが傾いていないかどうかを確認し、手順3、5で固定したネジを、しっかり締めてください。



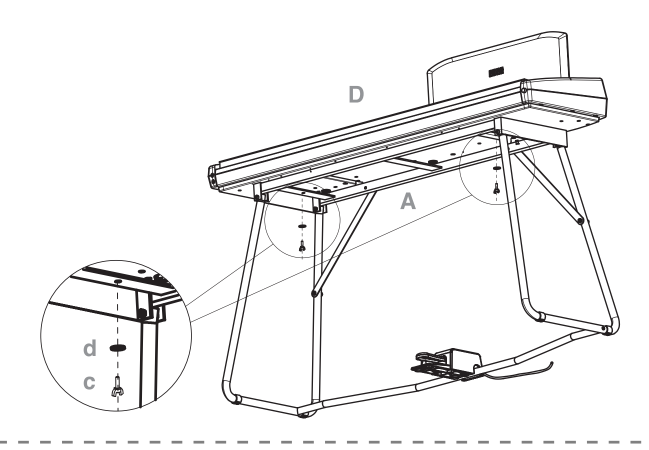
6. ダンパー・ペダル（C）のくぼみ部分を、ペダル用バー（B）に合わせて置きます。
スタンドがぐらつかないかどうかを確認してください。



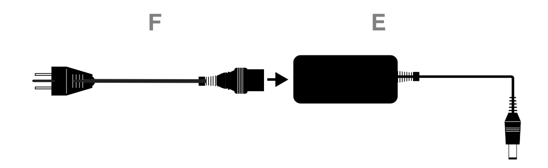
7. デジタル・ピアノ（D）を2人以上で持ち上げ、デジタル・ピアノの底面にある溝に、はめ込むようにして置きます。



8. ボルト（c）2つとワッシャー（d）2つで、スタンド（A）の下側からデジタル・ピアノ（D）と共にしっかりと固定します。ワッシャー（d）は、ボルト（c）とスタンド（A）との間に挟んでください。



9. ACアダプター本体に、専用コードを接続します。



10. ACアダプターのプラグをDC IN端子と接続し、コードをデジタル・ピアノのコード・フックに引っかけて固定します。詳しくは、P.9の「ACアダプターの接続」を参照してください。
次に、ダンパー・ペダルのプラグを、デジタル・ピアノのダンパー端子と接続します。

11. デジタル・ピアノを設置してください。このときは、平らで安定した床かどうかを確認し、安全な場所へ置いてください。

デジタル・ピアノを設置するときは、スタンドがACアダプターのコードを踏まないように注意してください。

組み立て後のチェック

- 部品は余っていませんか？
  部品が余ったときは、組み立て手順をよく見て、それらがどこで使用される部品なのかを確認してください。
- 全てのネジが緩んでいないかを確認してください。

その他の注意

組み立てた後は、以下の項目に注意してください。

- ネジの緩みについて
  組み立て後、時間が経過すると、各部のネジが緩むことがありますので、ネジが緩んでいないかを定期的に確認することをおすすめします。また、スタンドの揺れが激しいと感じる場合は、ネジが緩んでいる可能性があります。そのときは、ネジを締め直してください。
- 設置場所を移動するとき
  デジタル・ピアノ本体をスタンドから取り外し、本体とスタンドを別々に移動してください。移動後は「スタンドの組み立て方」に従い、組み立て直してください。
- 分解について
  スタンドを分解するときは、組み立て時の逆の順番で行ってください。分解後は、ネジなどの部品をなくさないように保管してください。

[SOUND]スイッチ機能一覧図

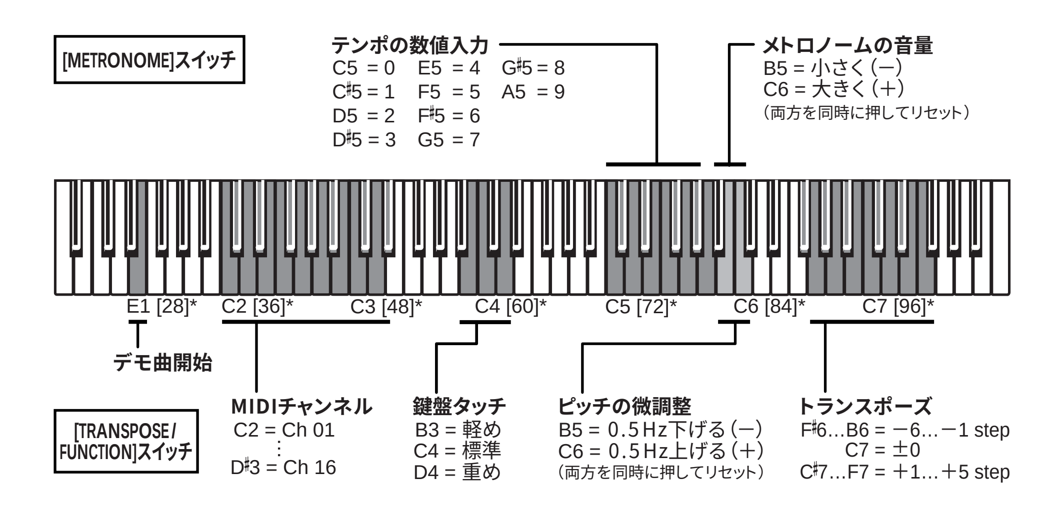
[REVERB]、**[CHORUS]**、**[TOUCH]**、**[METRONOME]**、**[TRANSPOSE / FUNCTION]**の各スイッチを押しながら、機能が割り振られた**[SOUND]**スイッチを押すと、下記の表の設定ができます。

スイッチを押すと／スイッチを押しながら	PIANO 1	PIANO 2	E.PIANO 1	E.PIANO 2	HARPSI / CLAV	VIBES / GUITAR	ORGAN 1	ORGAN 2	STRINGS / PAD	CHOIR
REVERB	浅い	標準	深い							
CHORUS	浅い	標準	深い							
TOUCH	軽め	標準	重め		ヴェルクマイスター	キルンベルガー				
METRONOME	2 / 4拍子	3 / 4拍子	4 / 4拍子	6 / 4拍子	標準アクセント	ベル音			メトロノーム音量小	メトロノーム音量大
TRANSPOSE / FUNCTION	ローカル・オン / オフ	プログラム・チェンジイネーブル / キャンセル	コントロール・チェンジイネーブル / キャンセル			データ・ダンプ				

鍵盤機能一覧図

[METRONOME]または**[TRANSPOSE / FUNCTION]**スイッチを押しながら、機能が割り振られた鍵盤を押すと、下記の図のような設定ができます。

[　]*はMIDIノートNo.です。



[デジタル・ピアノ]
SP-250

MIDIインプリメンテーション・チャート

2005.8.23

ファンクション...		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル:	電源ON時	1	1	
	設定可能	1－16	1－16	
モード	電源ON時		3	
	メッセージ	×	×	
	代用	**************		
ノート ナンバー:		15－113	0－127	
	音域	**************	21－108	
ベロシティ:	ノート・オン	○ 9n, V=1－127	○9n, V=1－127	
	ノート・オフ	×	×	
アフタータッチ:	キー別	×	×	
	チャンネル別	×	×	
ピッチ・ベンダー		×	○	
コントロール チェンジ	7	○	○	ボリューム *1
	11	×	○	エクスプレッション *1
	64	○	○	ダンパーペダル *1、*3
	66	×	○	ソステヌートペダル *1
	67	×	○	ソフトペダル *1、*3

	91	○	○	リバーブ *1
	93	○	○	コーラス *1
	120, 121	×	○	オールサウンドオフ、リセットオールコントロール
プログラムチェンジ:	設定可能範囲	○ 0−29 **************	○ 0−29 0−29	*2
エクスクルーシブ		○	○	サウンドデータダンプ
コモン:	ソング・ポジション	×	×	
	ソング・セレクト	×	×	
	チューン	×	×	
リアルタイム:	クロック	×	×	
	コマンド	×	×	
その他:	ローカル・オン/オフ	×	○	
	オール・ノート・オフ	○	×	*4
	アクティブセンシング	○	○	
	リセット	×	×	

備考
*1：コントロールチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。
*2：プログラムチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。
*3：ハーフペダルの出力値（0, 38, 74, 127）。
*4：レイヤー・モードから、シングル・モードに戻るときと、ローカル・オフにしたとき送信する。

モード1: オムニオン、ポリ　　モード2: オムニオン、モノ　　○: あり
モード3: オムニオフ、ポリ　　モード4: オムニオフ、モノ　　×: なし

MIDI Implementationの配布については、コルグお客様相談窓口へお問い合わせください。

保証規定（必ずお読みください）

本保証書は、保証期間中に本製品を保証するもので、付属品類（ヘッドホンなど）は保証の対象になりません。保証期間内に本製品が故障した場合は、保証規定によって無償修理いたします。

1. 本保証書の有効期間はお買い上げ日より１ケ年です。
2. 次の修理等は保証期間内であっても有料修理となります。
   - 消耗部品（電池、スピーカー、真空管、フェーダーなど）の交換。
   - お取扱い方法が不適当のために生じた故障。
   - 天災（火災、浸水等）によって生じた故障。
   - 故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
   - 不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
   - 保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
   - 本保証書の提示がない場合。

   尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、修理した日より3ケ月以内に限り無償修理いたします。
3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.
4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。詳しくは、サービス・センターまでお問い合わせください。
5. 修理、運送費用が製品の価格より高くなることがありますので、あらかじめサービス・センターへご相談ください。発送にかかる費用は、お客様の負担とさせていただきます。
6. 修理中の代替品、商品の貸し出し等は、いかなる場合においても一切行っておりません。

本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損傷につきましては、弊社はいっさいの責任を負いかねますのでご了承ください。

本保証書は、保証規定により無料修理をお約束するためのもので、これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

■お願い

1. 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
2. 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

コルグ SP-250　**保証書**

本保証書は、上記の保証規定により無料修理をお約束するものです。

お買い上げ日　　　　年　　月　　日

販売店名

アフターサービス

■保証書

本製品には、保証書が添付されています。

お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。

なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路などのように機能維持のために必要な部品）の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめサービス・センターへお問い合わせください。

■修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。

それでも異常があるときは、サービス・センターへお問い合わせください。

■修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ご質問、ご相談について

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、サービス・センターへお問い合わせください。

商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

お客様相談窓口　TEL 03(3799)9086

● サービス・センター:
〒143-0001東京都大田区東海 5-4-1明正大井5号営業所
コルグ物流センター内　　TEL 03(3799)9085

SP-250 取扱説明書



Ⓙ ①



株式会社コルグ
本社: 〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2　URL: http://www.korg.co.jp/

SP-250

If the floor underneath your SP-250 isn't level, the stand - and keyboard - may rock from side to side. In this case, you can use the felt that we've included to make the stand sit firmly on an uneven floor. Simply cut a piece of the bundled felt to a suitable size (use more than one layer, in necessary), and attach it to one of the plastic feet at the bottom of the stand, where it would normally touch the floor.

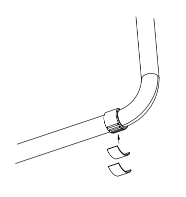
Si la surface sur laquelle vous voulez positionner votre SP-250 est irrégulière, de telle sorte qu'elle provoque l'instabilité de votre piano, il faut procéder à l'opération suivante : Prenez la feuille en feutre jointe et découpez-y un ou plusieurs morceaux de feutre (selon la hauteur des inégalités à compenser) ; appliquez-les aux parties en plastique sous les pieds du support, là où le support touche le sol. Le support devrait ainsi devenir stable.

Wenn Sie das SP-250 an einem unebenen Ort aufstellen möchten, können Sie folgendermaßen verhindern, dass es anfängt zu wackeln. Schneiden Sie das beiliegende Filzstück (bzw. die Stücke) auf die geeignete Größe zurecht und bringen Sie jene Streifen an den schwebenden Gummifüßen der Ständereinheit an, um letztere zu stabilisieren.

Se la superficie su cui intendete posizionare l'SP-250 presenta delle irregolarità, facendo traballare il pianoforte, vi preghiamo di effettuare la seguente operazione. Tagliate uno o più pezzi di feltro dal foglio accluso, e attaccate uno o più pezzi di feltro (a seconda delle necessità) alle parti in plastica sotto i piedi del supporto, nel punto in cui il supporto tocca terra. Il supporto dovrebbe divenire stabile.

若是放置SP-250的地面不够平稳，易引起支架以及琴体摇晃。若碰上此类情形，您可以垫上我们提供的毡片使支架稳固地置于地面。只需剪一块适当大小的毡片附于支架底座即可（若有需要可附上多层毡片）。

設置する場所に凹凸があり、スタンドがぐらつくときは、次のようにします。
同梱されているフェルトを適当な大きさに切り、スタンド底面のプラスティック部分（床に接する部分）に1枚、または2、3枚を重ねて貼り付け、ぐらつきの無いようにしてください。



KORG